

# 地域社会に対する 誇りと愛情を育てることができる指導の工夫

—— 地域の「もの・こと・ひと」に視点を当てた  
小学校社会科における単元の構想と活用を通して ——

長期研修員 竹田 鎮則

## 《研究の概要》

本研究は、地域の郷土資源や文化遺産を教材として、地域の「もの・こと・ひと」に視点を当てた小学校社会科（中学年）における単元の構想と活用を通して、地域社会に対する誇りと愛情を育てることを目指したものである。具体的には、まず、地域の郷土資源や文化遺産に興味を持つとともに、地域の「もの・こと・ひと」に視点を当てた学びの視点を設定し、単元全体の見通しを持つ。次に、郷土資源や文化遺産を調べ、地域の地理的環境や産業の様子、人々の生活の変化、地域の発展に尽くした先人の働きや苦心に気付く。最後に、地域の特色を理解し、先人や地域の人々の思いや自分と地域の関わりについて考え、地域社会のよさを発信する。これらのことを通して、地域社会の一員としての自覚を持ち、地域社会に対する誇りと愛情を育てていくことを目指していくものである。

**キーワード** 【社会—小 地域社会 誇りと愛情 「もの・こと・ひと」 単元の構想】

群馬県総合教育センター

分類記号：G02-02 平成27年度 255集

## I 主題設定の理由

小学校学習指導要領解説社会編では、「社会生活についての理解を図り、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育て、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う」ことを目標としている。目標の中の「我が国の国土に対する理解と愛情」については、「身近な地域や市、県などの様子についての指導を踏まえて、我が国の国土の地理的環境とそこで営まれている産業の様子などの理解を図り、我が国の国土に対する愛情を育てる」となっている。また、「我が国の歴史に対する理解と愛情」については、「市を中心とした地域の人々の生活の変化や地域の発展に尽くした先人の働きの指導を踏まえ、我が国の歴史に対する理解を深めるとともに、我が国の歴史に対する愛情を育てる」としている。

はばたく群馬の指導プランでは、伸ばしたい資質・能力として、「人々の工夫や努力を考え、地域のまちづくりを理解すること」や、「地域のために、自分にできることを考えること」を掲げている。また、平成27年度学校教育の指針における指導の重点「郷土資源、文化遺産」では、「県内の郷土資源や文化遺産を、郷土愛をはぐくむ指導等に積極的に役立てること」が示されている。このことから、地域の特色の理解を図り、自分と地域との関わりについて考えたり、郷土への愛情をはぐくむ指導などに郷土資源や文化遺産を活用したりすることが求められている。

本研究に関わる実態調査（平成27年7月実施 対象：所属校4年児童 112名）では、「自分の住んでいる市に良いところがありますか」の問いに対して、約10%の児童が「ない」と回答した。所属校の校区内には、世界遺産に登録された富岡製糸場がある。しかし、その歴史的価値や地域で果たした役割などの理解が不十分であるために、そのよさを感じるまでには至っていない。また、地域学習では、副読本に取り上げられている郷土資源や文化遺産などの特色を教えるだけの授業になる傾向があると同時に、地域のよさを感じることができるときの「目指す児童像やねらいを明確化していないこと」、「学習の視点を焦点化していないこと」など、単元の構想ができていないことが課題である。結果として、地域の特色などをただ覚えるだけの学習となり、地域のよさを感じられず、地域社会に対する誇りと愛情を持つことができていない。

そこで、地域社会に対する誇りと愛情を育てるためには、地域のよさを感じることができるときの視点を設定した単元を構想し、活用する必要があると考える。本研究では、学びの視点として、児童が地域社会のよさを感じることができるときの「もの（地理的環境や産業の様子）・こと（人々の生活の変化）・ひと（先人の働きや苦心）」を位置付ける。具体的には、郷土資源や文化遺産に興味を持ち、学びの視点に沿って、それらについて調べる。そして、調べたことを基にして、地域の特色を理解した上で、先人や地域の人々の思いや自分と地域の関わりについて考え、地域社会のよさを発信することで、地域の一員としての自覚を持ち、地域社会に対する誇りと愛情を持つ。

以上のことから、小学校社会科において、地域の「もの・こと・ひと」に視点を当てた単元の構想と活用を通して、地域社会に対する誇りと愛情を育てることができると考え、本主題を設定した。

## II 研究のねらい

地域社会に対する誇りと愛情を育てるために、地域の「もの・こと・ひと」に視点を当てた小学校社会科における単元を構想し、活用することの有効性を明らかにする。

## III 研究仮説（研究の見通し）

### 1 地域の郷土資源や文化遺産に興味を持ち、地域の「もの・こと・ひと」に視点を当て、単元全体の見通しを持つこと

つかむ過程で、地域の郷土資源や文化遺産、資料に触れ、地域の郷土資源や文化遺産に興味を持ち、地域の「もの・こと・ひと」に視点を当てた学びの視点を設定することで、単元全体の見通しを持つ

ことができるであろう。

## 2 地域の「もの・こと・ひと」に視点を当て、地域の特色に気付くこと

追究する過程で、地域の「もの・こと・ひと」に視点を当て、地域の郷土資源や文化遺産を調べることで、地域の地理的環境や産業の様子、人々の生活の変化、地域の発展に尽くした先人の働きや苦心に気付くことができるであろう。

## 3 地域の「もの・こと・ひと」から地域社会に対する誇りと愛情を持つこと

考え・まとめる過程で、地域の「もの・こと・ひと」の視点から地域の特色の理解を図り、先人や地域の人々の思いや自分と地域の関わりについて考え、地域社会のよさを発信することで、地域の一員としての自覚を持ち、地域社会に対する誇りと愛情を持つことができるであろう。

# IV 研究の内容

## 1 基本的な考え方

### (1) 地域社会に対する誇りと愛情を育てるとは

小学校学習指導要領では、「地域社会に対する誇りと愛情を育てる」とは、「現在及び過去の地域の人々の工夫や努力によって生み出された、地域社会の特色やよさへの理解に基づいて、自分たちの住んでいる地域社会に対する誇りと愛情を育てるようにすることである」と示されている。

これを受け、本研究では、地域社会に対する誇りと愛情を育てるために、地域のよさを感じることができる学びの視点を設定し、地域の地理的環境や産業の様子、人々の生活の変化、地域の発展に尽くした先人の働きや苦心に気付くことができるようにする。そして、学びの視点から地域の特色の理解を図り、先人や地域の人々の思いや自分と地域との関わりについて考え、地域社会のよさを発信することができる単元を構想し、活用することで、地域社会に対する誇りと愛情を育てることができる考える。

### (2) 地域の「もの・こと・ひと」とは

はばたくぐんまの指導プランの総合的な学習の時間では、よりよい単元作りをするために、児童生徒が目の前の「ひと・もの・こと」と直接的に関わるようにする学習対象(教材)の開発や目指す児童生徒の姿を具体的に想定をすることが示されている。社会科においても、単元の構想をする際、地域の特色を理解するために、郷土資源や文化遺産を学習対象として取り入れたり、目指す児童像やねらいを明確にしたりすることが効果的であると考ええる。

本研究における地域の「もの・こと・ひと」の具体例は図1のとおりであり、それらが、相互に関連し合うことを理解することで、地域社会に対する誇りや愛情を育てることができる考える。

### (3) 地域の「もの・こと・ひと」に視点を当てた単元の構想とは

地域の「もの・こと・ひと」に視点を当てた単元の構想とは、次のとおりである。まず、つかむ過程で、児童の生活に身近な事象を取り上げ、具体的な体験や資料を通して、児童が興味・関心を持つ。そこから生まれた疑問や驚きを大切にしながら、単元を貫く課題を設定する。そして、地域

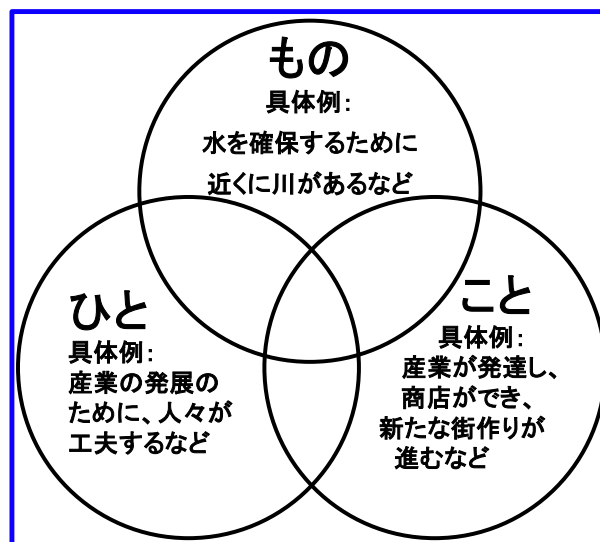


図1 地域の「もの・こと・ひと」の具体例

の「もの・こと・ひと」に視点を当てた学びの視点を設定し、単元全体の見通しを持つ。次に、追究する過程で、地域の「もの・こと・ひと」の視点に沿って、郷土資源や文化遺産を調べ、地域の地理的環境や産業の様子、人々の生活の変化、地域の発展に尽くした先人の働きや苦心に気付く。最後に、考え・まとめる過程で、地域の「もの・こと・ひと」の視点に沿って、気付いたことを再構成し、地域の特色の理解を図り、先人や地域の人々の思いや自分と地域の関わりについて考え、地域社会のよさを発信することで、地域社会の一員としての自覚を持ち、地域社会に対する誇りと愛情を育てることができる（図2）。

なお、本研究では、単元を通して、地域の「もの・こと・ひと」に視点をより焦点化するために、ワークシート集『なぞときブック』を活用する。

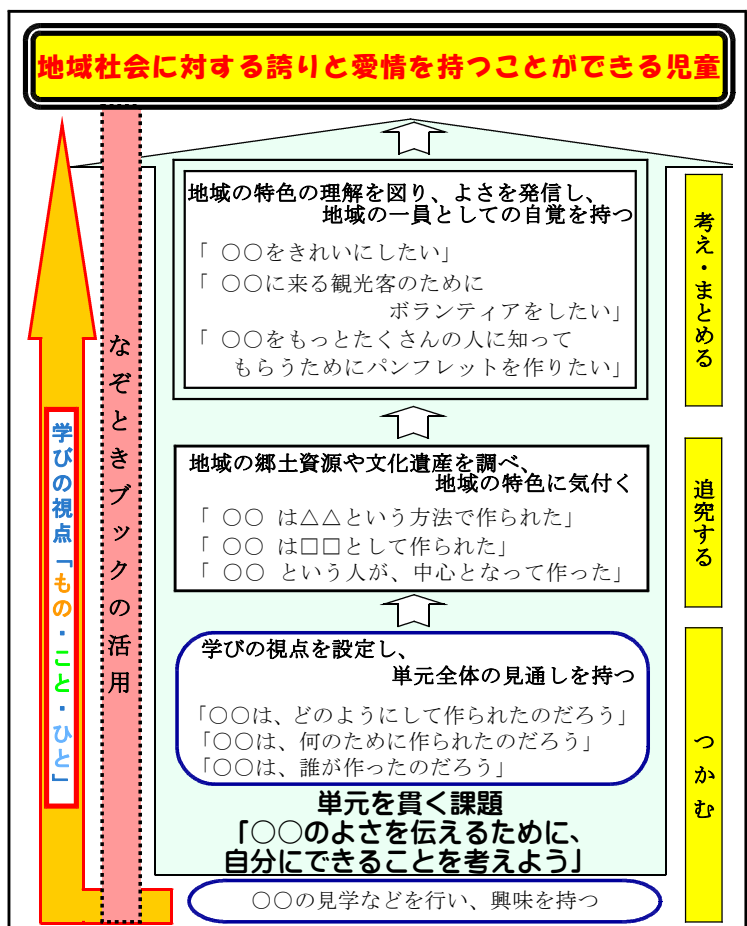
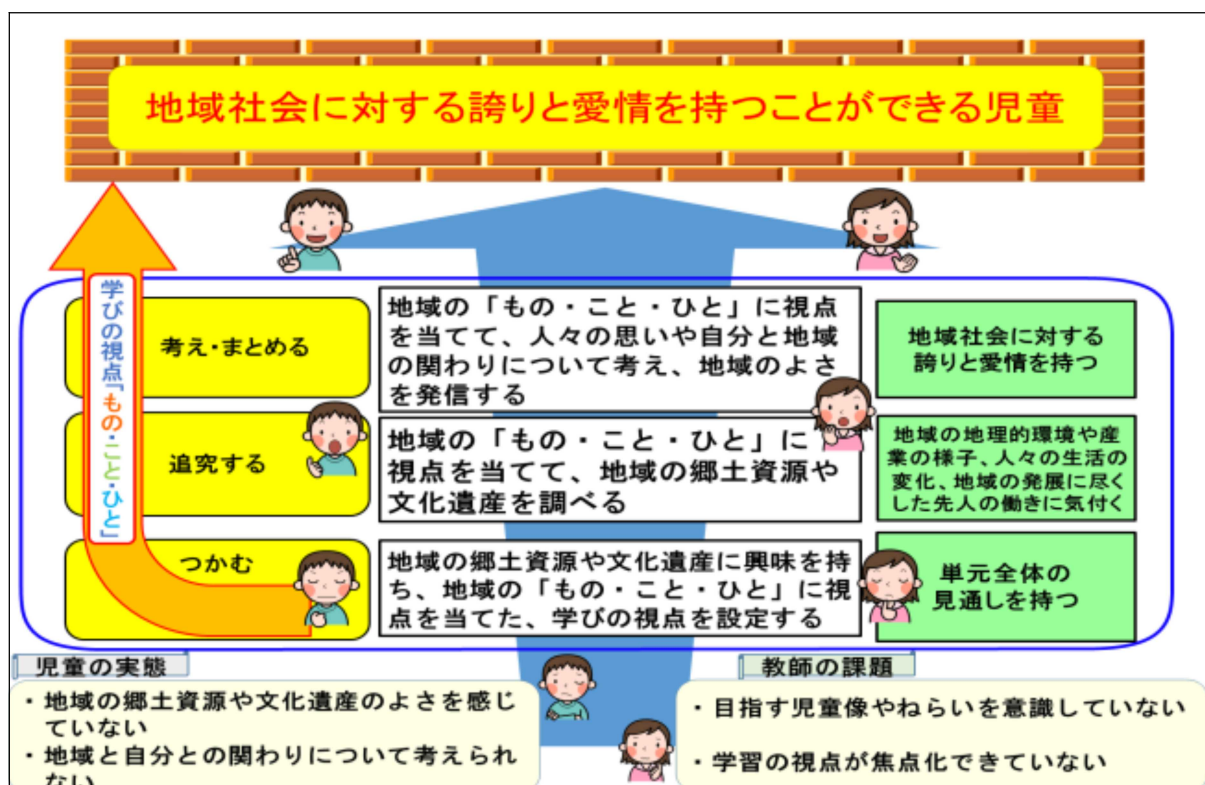


図2 単元の構想

## 2 研究構想図



## V 実践の計画と方法

### 1 実践の概要

対 象	研究協力校 小学校第4学年 112名
実践期間	平成27年10月6日～平成27年11月11日 52時間（13時間×4クラス）
単 元 名	地域の発展に尽くした人々
単元の目標	地域の郷土資源や文化遺産に興味を持ち、学びの視点を設定して調べることを通して、地域の地理的環境や産業の様子、人々の生活の変化、地域の発展に尽くした先人の働きに気づき、地域の特色の理解を図り、先人や地域の人々の思いや自分と地域との関わりを考え、地域社会のよさを発信することで、地域の一員としての自覚を持ち、地域社会に対する誇りと愛情を持つことができる。

### 2 検証計画

検証項目	検証の観点	検証の方法
見通し1	つかむ過程で、地域の郷土資源や文化遺産、資料に触れ、地域の郷土資源や文化遺産に興味を持ち、地域の「もの・こと・ひと」に視点を当てた学びの視点を設定することで、単元全体の見通しを持つことができるであろう。	『なぞときブック』の記述 活動状況の観察 記録用写真 記録用ビデオ
見通し2	追究する過程で、地域の「もの・こと・ひと」に視点を当て、地域の郷土資源や文化遺産を調べることで、地域の地理的環境や産業の様子、人々の生活の変化、地域の発展に尽くした先人の働きや苦心に気付くことができるであろう。	
見通し3	考え・まとめる過程で、地域の「もの・こと・ひと」の視点から地域の特色の理解を図り、先人や地域の人々の思いや自分と地域の関わりについて考え、地域社会のよさを発信することで、地域の一員としての自覚を持ち、地域社会に対する誇りと愛情を持つことができるであろう。	

### 3 抽出児童


A	地域の特色などは理解できるが、地域社会に対する誇りと愛情を持つまでには至っていない。考え・まとめる過程で、自分が地域のためにできることを考えることで、地域社会に対する誇りと愛情を育てていきたい。
B	地域の特色などを理解することが苦手である。地域のよさを感じられていないので、地域の「もの・こと・ひと」に視点を当てて調べ、地域の特色に気付くことで、地域社会に対する誇りと愛情を持つための素地を養っていきたい。

### 4 評価規準

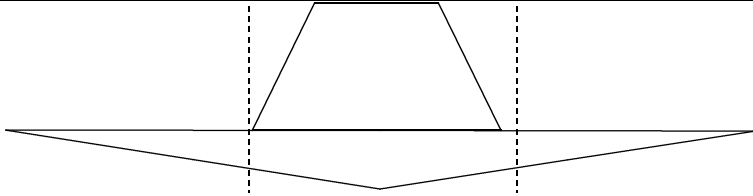
社会事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
郷土資源や文化遺産に関心を持ち、意欲的に調べ、先人や地域の人々の思いや自分と地域との関わりを考えようとしている。	郷土資源や文化遺産について課題を見出して調べ、先人や地域の人々の思いや自分と地域との関わりについて考えるとともに、地域社会のよさを発信している。	郷土資源や文化遺産を調べ、必要な情報を集め、適切に読み取ったり、まとめたりしている。	地域の地理的環境や産業の様子、人々の生活の変化、先人の働きや苦心など、地域の特色について理解している。

5 指導計画

(1) グループ追究型（追究する過程を、グループで行う単元の構想）

過程	○ 基本的な流れ ☆ 指導のポイント	時間 指導例 「地域の発展に尽くした人々」
つかむ	<p>1 課題を把握する。</p> <p>○郷土資源や文化遺産の見学、資料などの読み取りを行い、概要をつかむとともに疑問や驚き、さらに調べたいことを明らかにする。</p> <p>○疑問や驚きを基に、単元を貫く学習課題を設定する。</p> <p>☆教師があらかじめ設定した学習課題に児童が向かうように展開を工夫する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>「〇〇〇〇を見学して、 新たな発見をしよう」 ☆なぞときブック①の活用（第1時）</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>「〇〇〇〇を見学して、疑問に思った ことやもっと調べたいことを考えよう」 ☆なぞときブック②の活用（第2時）</p> </div>  <p>2 学びの視点を設定し、追究計画の見通しを持つ。</p> <p>○単元の学習予定を確認する。</p> <p>☆主体的に学習に取り組めるように、調べ方など、学習の進め方を全体で確認する。</p> <p>○もっと調べたいことを「もの・こと・ひと」に視点を当てて整理し、学びの視点を設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 30%;"> <p style="font-size: 24px; text-align: center;">「もの」</p> <p style="text-align: center;">どうやって作られた のかな</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 30%;"> <p style="font-size: 24px; text-align: center;">「こと」</p> <p style="text-align: center;">何のために作られた のかな</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 30%;"> <p style="font-size: 24px; text-align: center;">「ひと」</p> <p style="text-align: center;">誰が作ったのかな</p> </div> </div> <p style="font-size: 24px; font-weight: bold; margin: 10px 0;">学びの視点を設定する</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: 60%;"> <p>「調べることを明らかにし、 学習計画を立てよう」 ☆なぞときブック③の活用（第3時）</p> </div> </div>	<p>2</p> <p>1 課題を把握する。</p> <p>(1)富岡製糸場を見学し、興味を持つとともに、概要をつかむ。</p> <p>(2)気付いたこと、疑問や驚いたこと、もっと調べたいことについて発表し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>単元を貫く課題</b> 富岡製糸場のよさを伝えるために、どのようなことが自分にできるか考えよう。</p> </div> <p>1 2 学びの視点を設定するとともに、追究計画の見通しを持つ。</p> <p>(1)もっと調べたいことを、地域の「もの・こと・ひと」に視点を当てて、調べる内容を明確にする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>表れて欲しい児童像</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どのようにしてつくられたのか。（「もの」）</li> <li>・なんのためにつくられたのか。（「こと」）</li> <li>・だれが作ったのか。（「ひと」）</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p> </div> <p>(2)今後の学習の流れ、予定時数などを確認する。</p> <p style="text-align: right;">（3時間）</p>
追究する	<p>3 課題を追究する。</p> <p>（視点ごとにグループ分けをし、地域の「もの・こと・ひと」に視点を当てて調べる）</p> <p>○単元を貫く学習課題の解決のために、地域の「もの・こと・ひと」の視点に沿って追究する。</p> <p>○資料から必要な情報を収集する。</p> <p>○様々な情報を比較・関連付けて考え、問題解決に向かう。</p> <p>☆調べることだけが目的にならないよう、課題解決に向けて考える活動を取り入れる。</p> <p>○調べたことをまとめ、内容を確認し合う。</p> <p>☆調べたことの情報交換や考えたことの交流ができるように場の工夫をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;">  <p style="font-size: 24px; text-align: center;">「〇〇〇〇の秘密を探ろう」 ☆なぞときブック④の活用 （第4時、第5時、第6時）</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 30%;"> <p style="font-size: 24px; text-align: center;">「もの」</p> <p style="text-align: center;">こうやって 作られたんだな</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 30%;"> <p style="font-size: 24px; text-align: center;">「こと」</p> <p style="text-align: center;">こんな風に生活は 変わったんだな</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 30%;"> <p style="font-size: 24px; text-align: center;">「ひと」</p> <p style="text-align: center;">こんな苦勞を乗り 越えてきたんだな</p> </div> </div> <p style="font-size: 24px; font-weight: bold; margin: 10px 0;">郷土資源や文化遺産を調べる</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto; width: 60%;"> <p>「〇〇〇〇について、 分かったことを確認しよう」 ☆なぞときブック⑤の活用 （第7時）</p> </div> </div>	<p>3</p> <p>3 視点ごとのグループを作り、資料を基に、課題に対する情報を収集し、整理する。</p> <p>(1)資料から情報を収集する。</p> <p>(2)調べた情報を整理する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>表れて欲しい児童像</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・富岡製糸場は、木骨レンガ造りという方法で建てられた。（「もの」）</li> <li>・富岡製糸場は、生糸の生産のお手本の工場としてつくられた。（「こと」）</li> <li>・尾高惇忠という人が、建設の中心となってやっていた。（「ひと」）</li> </ul> <p style="text-align: right;">など</p> </div> <p>1 (3)まとめた内容を確認し、共有する。</p> <p style="text-align: right;">（4時間）</p>





- 4 単元を貫く課題の解決に向けて、地域の「もの・こと・ひと」の視点に沿って、追究したことを再構成する。また、自分との関わりについて考え、発信する。  
 (三つの視点のメンバーが入るように、グループを再編成する)  
 ○視点ごとに調べた情報を共有した上で、単元を貫く学習課題の解決につながる、自分との関わりについて考える。  
 ☆地域の「もの」、「こと」、「ひと」の三つの視点から再構成するために、三つの視点が入るグループを編成する。  
 ☆他の人の意見や考えを付け足したり、取り入れたりし、自分の考えが加除・修正できるように、調べたことを交流する時間をとる。  
 ☆地域の一員としての自覚を持つことを促すために、自分がどのように郷土資源や文化遺産に関わっていくかについて考える時間をとる。  
 ☆単元を貫く課題の解決に向けて、三つの視点を含んだリーフレットを個々に作成する。



## 地域のよさを発信する

「こんないいところがあったんだな」  
 「これから大切にしていきたいな」  
 「もっとたくさんの人に知ってもらいたいな」



「〇〇〇〇について、  
 分かったことをまとめよう」  
 ☆なぞときブック⑥の活用  
 (第8時)

「〇〇〇〇のよさを伝える  
 ために、自分のできることは何だろう」  
 ☆なぞときブック⑦の活用  
 (第9時)

「〇〇〇〇のよさを伝えるための  
 リーフレットを作ろう」  
 ☆リーフレット作り  
 (第10時、第11時)

「〇〇〇〇のよさを伝える  
 ための発表会をしよう」  
 ☆なぞときブック⑧の活用  
 (第12時、第13時)

- 5 単元を振り返り、学習のまとめをする。  
 ○地域の人たちなどに追究した結果を発表する。  
 ☆校外での活動になる場合は、安全には十分注意する。

## 地域社会に対する誇りと愛情を持つ児童



- 4 調べたことを確認し合い、地域の「もの・こと・ひと」の視点から気付いた事実を再構成し、富岡製糸場と関わって、自分にできることを考え、発信する。

- 1 (1) 三つの視点から、気付いた事実を再構成する。

### 表れて欲しい児童像

- ・富岡は製糸場をつくるのに、ちょうどいい場所だった。(「もの」)
- ・富岡製糸場ができて、絹産業が盛んになった。(「こと」)
- ・尾高惇忠は、今まで日本になかった建設の材料をいろいろなところから集めた。(「ひと」)  
 など

- 1 (2) 富岡製糸場のために、自分にできることを考える。

### 表れて欲しい児童像

- ・富岡製糸場をもっとたくさんの人に知ってもらうためにパンフレットを作りたい。
- ・富岡製糸場をきれいにしたい。
- ・富岡製糸場に来る観光客のためにボランティアをしたい。  
 など

- 2 (3) 調べたことをまとめたリーフレットを作成する。  
 ・リーフレットの中に、地域の「もの・こと・ひと」の視点からまとめたものを含むようにする。  
 ・リーフレットの中に、自分がどのように富岡製糸場に関わっていくかについても入れる。

(4時間)

- 2 5 追究したことをまとめ、発表する。

- (1) リーフレットを使って、学習したことを発表する。

(2時間)

考  
え  
ま  
と  
め  
る

(2) 個人追究型（追究する過程を、個人で行う単元の構想）

過程	○ 基本的な流れ ☆ 指導のポイント	時間	指導例 「地域の発展に尽くした人々」
※つかむ過程は、グループ追究型参照			
追 究 す る	<p>3 課題を追究する。(個人で地域の「もの・こと・ひと」を調べる)</p> <p>○単元を貫く学習課題の解決のために、地域の「もの・こと・ひと」の視点に沿って追究する。</p> <p>○資料から必要な情報を収集する。</p> <p>○様々な情報を比較・関連付けて考え、問題解決に向かう。</p> <p>☆調べることだけが目的にならないよう、課題解決に向けて考える活動を取り入れる。</p> <p>「〇〇〇〇の秘密を探ろう」 ☆なぞときブック④の活用 (第4時、第5時、第6時)</p> <p><b>「もの」を調べる</b></p> <p><b>「ひと」を調べる</b></p> <p><b>「こと」を調べる</b></p> <p>○調べたことをまとめ、内容を確認し合う。 (興味関心を基にグループ分けをし、まとめさせる)</p> <p>☆調べたことの情報交換や考えたことの交流ができるように場の工夫をする。</p> <p>↓</p> <p><b>「もの」</b> こうやって作られたんだな</p> <p><b>「こと」</b> こんな風に生活は変わったんだな</p> <p><b>「ひと」</b> こんな苦勞を乗り越えてきたんだな</p> <p><b>郷土資源や文化遺産を調べる</b></p> <p>「〇〇〇〇について、 分かったことを確認しよう」 ☆なぞときブック⑤の活用 (第7時)</p>	3	<p>3 個人で資料を基に、課題に対する情報を収集する。</p> <p>(1) 資料から情報を収集する。 (2) 調べた情報を整理する。</p> <p><b>表れて欲しい児童像</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・富岡製糸場は、木骨レンガ造りという方法で建てられた。(「もの」)</li> <li>・富岡製糸場は、生糸の生産のお手本の工場としてつくられた。(「こと」)</li> <li>・尾高惇忠という人が、建設の中心となっていた。(「ひと」)</li> </ul> <p>など</p>
	1	<p>(3) まとめた内容を確認し、共有する。</p> <p>(4時間)</p>	
※考え・まとめる過程は、グループ追究型参照			

VI 研究の結果と考察

1 つかむ過程で、地域の郷土資源や文化遺産、資料に触れ、地域の郷土資源や文化遺産に興味を持ち、地域の「もの・こと・ひと」に視点を当てた学びの視点を設定することで、単元全体の見通しを持つことができたか

(1) 結果

**第1時** 学習課題「富岡製糸場を見学して、新しい発見をしよう」

地域の「もの・こと・ひと」の視点に沿った学習となるよう意図的に、「建物の作りや大きさ」、「関係する人物」などについて説明した後、富岡製糸場を見学した。見学中においても、視点に沿った学習となるように、必要に応じて教師が見学内容の確認をした。見学中は、「レンガの表面を見た」、「屋根の形がすごい」など、視点に沿った発言が見られ、地域の文化遺産に興味を持つことができた。見学時の抽出児の様子は、表1のとおりである。

表1 見学時の抽出児童の様子

抽出児童A	抽出児童B
<p>繰糸場でどのように生糸を作っていたのかに興味を持ち、繰糸機がどのように動いていたのか考えながら見学していた。</p>	<p>建物や繰糸機は眺めているだけだったが、繭から生糸を作る説明のVTRに興味を持ち、グループのメンバーを引き止めて熱心に見ていた。</p>

**第2時** 学習課題「富岡製糸場を見学して、疑問に思ったことからもっと調べたいことを考えよう」

単元を貫く課題を設定するために、前時の見学で気付いたことを出し合い、疑問に思ったことか



ら調べたいことをまとめた。見学により「製糸場には、たくさんのレンガが使われている」、「製糸場で生糸を作っていた」、「たくさんの人が富岡製糸場で働いていた」など、興味を持つことができた。その後、見学で感じた疑問や驚き、もっと調べたいことを全体で共有し、単元を貫く課題「富岡製糸場のよさを伝えるために、どのようなことが自分にできるか考えよう」を設定した。授業における児童の様子は、表2のとおりである。

表2 第2時において、単元を貫く課題を設定した場面の授業の様子

S1: どうして富岡製糸場は世界遺産なんだろう。
S2: 大人になってもこのまま残っているのかな。
S3: 解説員の人は、あんなによく知っています。
S4: 子ども解説員というのがあったけど、僕もできるのかな。
S5: せっかく世界遺産になったのだから、これからもずっと残っているといいな。
— 児童から、共感の声があがる —
T: では、富岡製糸場を残していくために、みんなができることを考えていきましょう。

**第3時** 学習課題「調べたいことを分類し、学習計画を確認しよう」

学習の導入では、単元を貫く課題を解決するために、もっと調べたいことの確認をグループで行った。確認し合っている時に、「調べたいことを変えていいですか?」という意見が出た。友達の考えに触れることで、新たな興味を持つことができた児童もいた。そして、クラス全体で調べたいことを出し合い、地域の「もの・こと・ひと」に分類したことで、学びの視点を設定することができた(図3)。なお、児童が

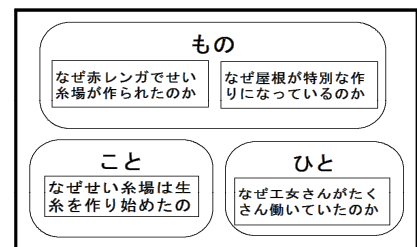


図3 児童が設定した学びの視点の様子

設定した学びの視点の例は、表3のとおりである。さらに、学習の計画を児童と確認し、最後に作成するリーフレットの見本を提示したことで、調べる内容がより焦点化でき、学習の見通しを持つことができた。なお、抽出児の振り返りの様子は、表4のとおりである。

表3 地域の「もの・こと・ひと」に視点を当てた学びの視点の例

「もの」	<ul style="list-style-type: none"> <li>なぜ、レンガと木で作られているのか。</li> <li>なぜ、繰糸場には窓がたくさんあるのか。</li> <li>木骨レンガ造りは、どうになっているのか。</li> <li>製糸場のレンガについて。</li> </ul>
「こと」	<ul style="list-style-type: none"> <li>何のために富岡製糸場は作られたのか。</li> <li>繭と糸はどうやって作られたか。</li> <li>なぜ、富岡市に製糸場ができたのか。</li> </ul>
「ひと」	<ul style="list-style-type: none"> <li>誰が富岡製糸場を作ろうと決めたのだろうか。</li> <li>ブリュナは、どういう人だったのか。</li> <li>富岡製糸場で働いていた工女さんについて。</li> <li>尾高惇忠は、何をした人か。</li> </ul>

表4 第3時終了時の抽出児童の授業後の『なぞときブック』の記述

抽出児童A	抽出児童B
ぼくは、せい糸場で生糸を作る機械を見学した。「こと」について調べるけど、「なぜせい糸場は生糸を作り始めたのか」についてが、とても気になった。	「もの・こと・ひと」というのがあって調べるんだな思った。ぼくは、「ひと」で、せい糸場で働いていた人について調べる。

(2) 考察

第1時の見学で、児童は、地域の郷土資源や文化遺産に触れたことで、それらに興味を持ち、もっと調べたいことを考えることができた。そして、地域の「もの・こと・ひと」に視点を当てた学びの視点を設定することで、どのようなことを調べたら良いか、見通しを持つことにつながった(図4)。

以上のことから、地域の郷土資源や文化遺産、資料に触れ、地域の郷土資源や文化遺産に興味を持ち、地域の「もの・こと・ひと」に視点を当てた学びの視点を設定することは、単元全体の見通しを持つことに有効であったと考える。

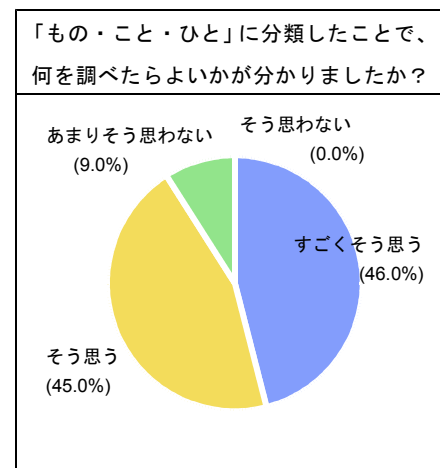


図4 児童アンケートの結果

2 追究する過程で、地域の「もの・こと・ひと」に視点を当て、地域の郷土資源や文化遺産を調べることで、地域の地理的環境や産業の様子、人々の生活の変化、地域の発展に尽くした先人の働きや苦心に気付くことができたか

(1) 結果

※別々のクラスでグループ追究型と個人追究型を行った

グループ追究型	個人追究型
<p><b>第4～6時</b> 学習課題「富岡製糸場の秘密を探ろう」 (第4時)</p> <p>最初に、地域の「もの・こと・ひと」の視点を意識するように調べたいことについて学級全体で話し合った。地域の「もの・こと・ひと」の視点で分けられたグループで追究していく1時間目。児童は、以下のようなことを調べた。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">「建物は木を柱にして、レンガで壁を作った (もの)」</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">「生糸を機械でたくさん作っていた (こと)」</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">「製糸場を作るのに、何人か外国の人がいた (ひと)」</div>	<p>「もの」の視点での追究する時間。視点を焦点化した学習であったので、調べる内容に適した資料を収集することができた。児童は、以下のようなことなどを調べた。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">「まゆ倉庫が二つあるのは、製糸場の周りから買い集めた1年分のまゆをたくわえておくため」 など</div>
<p>(第5時)</p> <p>追究の2時間目。まず、前時に調べたことをグループで共有した。調べたことの情報交換の時間を取ったことで、必要な資料などについても話し合うことができ、本時の追究活動がより進むことへとつながった。次のように、児童の調べたことが少しずつ深まっていった。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">「木骨レンガ造という建て方で、レンガはフランス式の積み方だった (もの)」</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">「品質の良い生糸を作る手本を示すために、製糸場は作られた (こと)」</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">「ポール・ブリュナは、富岡に製糸場を建てることを決め、富岡で働いた (ひと)」</div>	<p>「こと」の視点での追究する時間。個人追究型では、地域の「もの・こと・ひと」の視点ごとに『なぞときブック』を用意し、調べたことが混乱しないようにした。学習の様子を見ると、調べている時に児童同士が自主的に意見交流を行いながら、学習に取り組んでいた。児童は、以下のようなことなどを調べた。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">「富岡製糸場は、品質の良い生糸を作るために作られた」「生糸は外国に高く売れたので、たくさん作ろうとした」 など</div>
<p>(第6時)</p> <p>追究の3時間目。前時と同様に、グループで話し合う時間を取り、お互いに調べたことを共有し合うことができるようにした。地域の「もの・こと・ひと」の視点ごとにグループで調べることで、前時までに調べたことと関連付けて、次のようにより深く調べることができた。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">「レンガは、葺塚直次郎という人が、かわら職人を集めて作った (もの)」</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">「1年間生糸が作れるように、富岡の周辺から1年分のまゆを集めて、二つのまゆ倉庫に保管した (こと)」</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">「ポール・ブリュナは、製糸場の指導者として働き、家族と一緒に富岡に住んでいた (ひと)」</div>	<p>「ひと」の視点での追究する時間。前時と同様に、『なぞときブック』を用意して調べ学習を行った。自主的な意見交流もあり、児童は、以下のようなことなどを調べた。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin-bottom: 5px;">「ブリュナは、富岡に製糸場を作ることを決めて、5年間富岡で働いた」「尾高惇忠は製糸場建設の責任者となって、初代工場長となった」 など</div>
<p><b>第7時</b> 学習課題「富岡製糸場について、分かったことを確認しよう」</p> <p>最初に、今までに調べたことを簡潔にまとめた。その後、地域の「もの・こと・ひと」の視点のグループ内でお互いに発表し合った。友達の発表は、誰がどんなことに気付いたのかを『なぞときブック』に記録した。発表後に児童から、『「どうやって赤レンガを作ったか」と「中は木で、外はレンガが使われている」と違うことを調べたのに、「レンガの作り方」と「木骨レンガ造」の二つのことでつながった』という発言があり、お互いに気付いたことを確認し合えた。</p>	<p>興味・関心を基に、地域の「もの・こと・ひと」の三つの視点から一つ選び、簡潔にまとめた。その後、選んだ視点ごとのグループに分かれ、気付いたことを発表し合った。『なぞときブック』の記述を見ると、「木の柱で骨組みを作り、壁の部分にレンガを積み入れて作られたことが分かりました」、「フランス人のポール・ブリュナと尾高惇忠の二人のことを新しく知ったのでよかったです」という記述があった。気付いたことを発表し合うことで、お互いに気付いたことを確認し合うことができた。</p>

(2) 考察

児童は、地域の「もの・こと・ひと」に視点を当てたことで、調べることを明確にし、地域の特色を具体化することができた。グループ追究型では、各グループが一つの視点について具体的に調べ、友達の見解に触れながら詳しく調べることができた。個人追究型では、同じ視点で一斉学習に取り組むことができ、一人一人が地域の「もの・こと・ひと」のそれぞれの視点からの考えを関連付け、整理することができた。その結果、どちらの追究型でも、地域の「もの・こと・ひと」の視点から富岡製糸場について調べ、特色に気付くことができた（表5）。このことから、児童は地域の地理的環境や産業の様子、人々の生活の変化、地域の発展に尽くした先人の働きや苦心に気付くことができた（図5）。

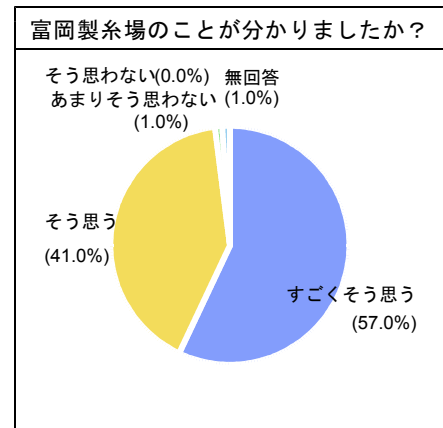


図5 児童アンケートの結果

以上のことから、地域の「もの・こと・ひと」に視点を当て、地域の郷土資源や文化遺産を調べることは、地域の地理的環境や産業の様子、人々の生活の変化、地域の発展に尽くした先人の働きや苦心に気付くことに有効であったと考える。

表5 地域の「もの・こと・ひと」に視点を当てて調べて気付いたことの例（下線は抽出児の記述）

	気付いたことの内容	気付いたことの具体例
「もの」	富岡製糸場の成り立ち	「製糸場を作るのに適した場所だった」 「材料が富岡周辺から集められた」
「こと」	富岡製糸場の果たした役割	「働いていた人が地元に戻って指導者になった」 <u>「製糸場ができて、生糸の品質がよくなった」</u>
「ひと」	富岡製糸場の成立に尽力した人と働き	<u>「ブリュナは、フランスから来て、5年間製糸場のために働いた」</u> 「尾高惇忠は工女が集まらなかったため、自分の娘を工女第一号にした」

3 考え・まとめる過程で、地域の「もの・こと・ひと」の視点から地域の特色の理解を図り、先人や地域の人々の思いや自分と地域の関わりについて考え、地域社会のよさを発信することで、地域の一員としての自覚を持ち、地域社会に対する誇りと愛情を育てることができたか

(1) 結果

第8時 学習課題「富岡製糸場の秘密について、分かったことをまとめよう」

前時までの視点別のグループから、気付いたことを再構成するために地域の「もの・こと・ひと」、それぞれの視点で交流できるグループを再編成し、意見交流をした。児童は、自分の気付いたことを分かりやすく伝えようとし、友達の発表を聞いて、新たな発見をしていた（表6）。中には、『自分は「もの」の視点で調べていたけれど、「ひと」の視点で調べた友達と同じことがあってびっくりしました。でも、みんな富岡製糸場でつながっているんだと思いました』という考えを持った児童もいた。また、抽出児の振り返りの様子は、次頁表7のとおりである。

表6 富岡製糸場の秘密について新たに分かったり考えたりしたことを整理する場面の授業の様子（下線は新たな発見の様子）

T: 「もの・こと・ひと」について、それぞれ調べたことを発表し合って、どんなことについてまとめられましたか？ (以下、児童同士の話し合い)
S1: 私は、ポール・ブリュナが建設地を決めて、建設を指導したことを調べたけど、建物のレンガがフランス積みとかガラスが使われているとかが分かった。
S2: <u>レンガはフランス人が指導して、日本人が作ったと〇〇君から聞いて、フランスと日本が合体したみたいだと思った</u>
S3: 僕は、和田英が働いていたことを調べたけど、製糸場を作った人で、たくさん名前が出てびっくりした。
S4: <u>僕は、「もの・こと・ひと」の全部に生糸が関わっているんだなと思った。</u>

表7 第8時終了時の抽出児童の授業後の『なぞときブック』の記述

抽出児童A	抽出児童B
ぼくは、「こと」のことを調べた。ちがう「もの」や「ひと」を調べていても、せい糸場をたてて、糸を作ることでつながりがあることが分かった。	「もの・こと・ひと」のことで、いろいろなことがわかった。「もの」でレンガのつみ方とか、「こと」でなんでせい糸場がたてられたかがわかった。

**第9時** 学習課題「富岡製糸場のために、これから自分にできることは何だろう」

地域の一員としての自覚を持つことを意識するために、まず、地域の「もの・こと・ひと」に視点を当てて、ねらいを意識しながら富岡製糸場のよさについてまとめた。次に、「富岡製糸場のために、これから自分にできることは何だろう」を考えた。全員の児童が自分にできることをよく考えることができ、各自が付箋に自分で思いついたことを書いた。中には複数の方法を

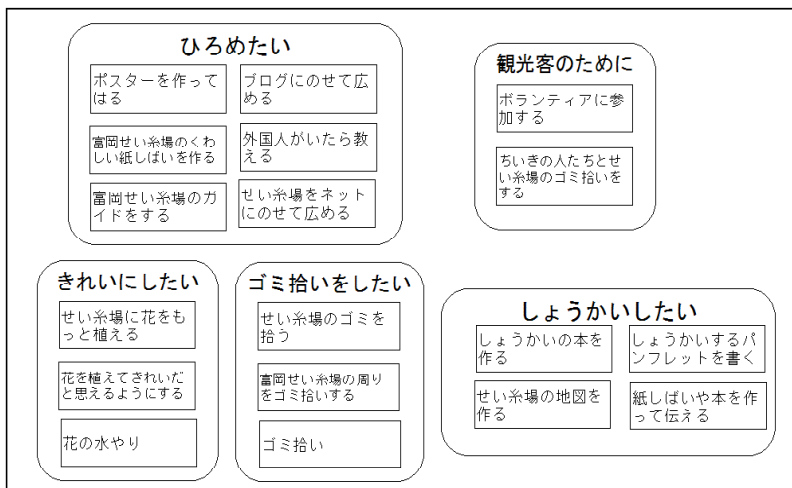


図6 グループでの仲間分けの例

考えることができた児童もいた。その後、図6のようにグループで似た意見を仲間分けをした。これらの活動から、地域と自分の関わりについて考え、再構成することで、全員が自分にできることを考えることができた。なお、抽出児の振り返りの様子は、表8のとおりである。

表8 第9時終了時の抽出児童の授業後の『なぞときブック』の記述

抽出児童A	抽出児童B
どんなれきしがあるのか紙しばいで伝えたり、ごみ拾いに進んで参加したり、富岡せい糸場が、ずっとずっと残っているために、自分たちにできることが考えられた。	せい糸場のよさを考えられた。本や紙しばいでみんなにおしえたい。せい糸場のはじまりやせい糸場のことをつたえるようにしたい。

**第10・11時** 学習課題「富岡製糸場のよさを伝えるためのリーフレットを作ろう」

地域の「もの・こと・ひと」の視点に沿ってまとめたことと、富岡製糸場を未来に残すために自分にできることを内容に取り入れたリーフレット作りをした。地域の「もの・こと・ひと」の視点に沿って焦点化したことにより、リーフレットに書く内容が明確になった。さらに、前時に考えた自分にできることについて再構成して、「今まできれいに残ってきた富岡製糸場のことを紙芝居で伝えたい」のように、よさを伝えるために自分にできることを考えることができた。また、作成の目的が明確だったために、意欲的にリーフレット作りに取り組むこともできた。地域の「もの・こと・ひと」の三つの視点でまとめたよさと、よさを伝えるために自分にできることを内容に取り入れたことで、「ごみ拾いをしてきれいにしたい」、「富岡をもっと有名にしたい」などの声が聞こえ、児童は地域の一員であることを自覚していた。

**第12・13時** 学習課題「富岡製糸場のよさを伝えるための発表をしよう」

学習のまとめとして、前時までには作成したリーフレットを活用し、2クラス合同で発表会を行った。発表の様子を見ると、友達の発表に興味を持って聞くことができ、自分がまだ知らない新たな発見をすることへとつながった。そのことから、富岡製糸場のよさに対する理解が深まったという達成感を持つことができた。また、発表を重ねるごとに、富岡製糸場のよさを伝えるために自分にできることを意識するようになり、地域の一員としての自覚を持つことができた児童が多かった。



児童が考えた富岡製糸場のよさを伝えるためにできることなどを記したリーフレットは、図7のとおりである。

発表後の『なぞときブック』の記述を見ると、「富岡製糸場を残すために、もっとたくさんの人に知ってもらいたい」、「よさをみんなに伝えられたと思うので、次は別のクラスにも発表してみたい」、「富岡製糸場のよさを伝えるために声の大きさなどの工夫がよくできたと思う。観光客にも伝えたいと思った」といった記述があった。



図7 児童のリーフレット作品

## (2) 考察

富岡製糸場について分かったことをまとめる時に、地域の「もの・こと・ひと」の視点から、児童同士が調べたことを交流することで、新たな発見をしたり、分からなかったことを明確にしたりして、協働的な学び合いの姿を見ることができた。調べたことを交流することによって分かったことがたくさんあり、新たな知識を得ることで、富岡製糸場について、より詳しく知ることができた児童が多かった。このように、自分で調べたことに加えて新たな情報を得ることで、自分の考えを再構成することができ、地域の特色を理解することにつながった。

さらに、富岡製糸場について分かったことを基に、地域の「もの・こと・ひと」の視点から、児童は自分なりに富岡製糸場のよさをまとめ、富岡製糸場を未来に残すために自分にできることを考えることができた。そして、富岡製糸場のよさについてまとめたことで、児童は、地域のことを理解した上で、自分にできることを考えている様子が見られた。このことから、地域のために自分が関わっていくことを考えることができ、地域の一員としての自覚を持つことができた。

以上のことから、地域の「もの・こと・ひと」の視点から地域の特色の理解を図り、先人や地域の人々の思いや自分と地域の関わりについて考え、地域社会のよさを発信することは、地域の一員としての自覚を持ち、地域社会に対する誇りと愛情を育てることに有効であったと考える。

## VII 研究のまとめ

### 1 成果

事後のアンケート調査では、99%の児童が富岡市にはよいところがあると答えた（図8）。また、「30年後も富岡製糸場が残っているとうれしい」、「このあとも、たくさん観光客が来ているといい」、「もっときれいな富岡市で、もっと富岡市が有名になっているといい」などの記述が見られた。今後も、世界遺産の富岡製糸場を生かした活気のある街になっていることや、今も感じている地域の人々の優しさが残っていることなど、地域社会を大切にしていきたいという意識が読み取れた。中には、「観光客の手助けをしたい」や「街の美化活動に参加したい」など、自分から地域社会に関わっていこうとする意欲を持った児童もいた。

また、この単元構想で授業を行った教師からは、「学びの視点がはっきりしていたので、児童に何が身に付けば良いかが分かりやすかった」、「地域のもの・こ

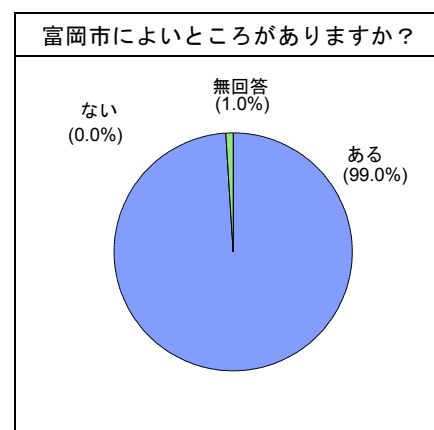


図8 児童アンケートの結果

と・ひとの視点があったことで、ねらいに沿った調べ学習ができたので良かった」、「学びの視点により、調べることが焦点化できた」といった意見があった。これらのことから、授業において、「目指す児童像やねらいを明確にする」ことや「学習の視点を焦点化する」ことができていたことが分かる。そして、「学びの視点に沿った調べ学習」を行うことで、「ねらいの達成」へとつなげることができたと考える。単元の各過程における成果は、以下の通りである。

- (1) つかむ過程で、地域の郷土資源や文化遺産に触れたことで興味・関心を持ち、疑問や調べたいことから単元を貫く課題を設定できた。さらに、地域の「もの・こと・ひと」に視点を当てた学びの視点を設定することで、何を調べたらよいか明確になり、単元全体の見通しを持つことができた。
- (2) 追究する過程で、地域の「もの・こと・ひと」に視点を当て、内容を焦点化したことで、地域の郷土資源や文化遺産を調べることができた。さらに、調べたことをグループで共有し、確認し合うことで、地域の地理的環境や産業の様子、人々の生活の変化、地域の発展に尽くした先人の働きや苦心に気付くことができた。
- (3) 考え・まとめる過程で、地域の「もの・こと・ひと」の視点から気付いたことを友達と交流することで、気付いたことを再構成し、地域の特色をまとめることができ、理解することができた。さらに、郷土資源や文化遺産のよさを伝えるために自分にできることを考え、地域社会のよさを発信することで、地域のために自分が関わっていくことを意識することができた。

以上のように、地域の「もの・こと・ひと」に視点を当てた単元を構想し、活用することは、地域の一員としての自覚を持ち、地域社会に対する誇りと愛情を育てるために有効であった。

## 2 課題

- (1) 児童が身近に感じることができる郷土資源や文化遺産の所在地や成り立ちなどをデータベース化することで、教材化する際に、よりねらいに沿った単元の構想ができると考える。
- (2) 地域の「もの・こと・ひと」の具体例を児童の実態に応じて示すことができると、学びの視点を設定する時に、児童がより自主的に取り組むことができ、どのようなことを調べたら良いかが、より分かりやすくなると考える。
- (3) 地域の「もの・こと・ひと」に視点を当てるための資料の収集やどのような資料を活用するのがよいかについて研究する必要がある。

## Ⅷ より良い実践に向けて

小学校社会科第3・4学年の地域学習だけでなく、他学年を含めた総合的な学習の時間などにも、地域の「もの・こと・ひと」に視点を当てた単元を構想し、実践していくことで、地域社会に対する誇りと愛情を育てることができると考える。

### <参考文献>

- ・文部科学省 『小学校学習指導要領解説 社会編』(2008)
- ・群馬県教育委員会 『はばたく群馬の指導プラン』(2012)
- ・群馬県教育委員会 『はばたく群馬の指導プラン 実践の手引き』(2014)
- ・澤井 陽介 中田 正弘 著 『ステップ解説社会科授業の作り方』 東洋館出版(2014)
- ・北 俊夫 向山 行雄 著 『新・社会科授業研究の進め方ハンドブック』 明治図書(2014)

### <担当指導主事>

関 喜史 小林 旭